

# 令和6年度国立大学法人機器・分析センター協議会技術職員会議・シンポジウム・総会に参加して

技術センター 藤高 仁

## 1. はじめに(目的等)

国立大学法人機器・分析センター協議会は、参加機関に設置されている共通分析装置を管理する施設の教職員が、施設運用のために協議や情報交換を行う全国会議である。

## 2. 期間・場所

期間:令和6年10月11日

場所:新潟大学 旭町キャンパス

## 3. 参加者等

国立大学法人等学術機関で共通分析装置の施設及び装置の管理運用を支援する教職員

## 4. 研修内容

本年は教員等が技術職員会議に出席しやすいよう総会・技術職員会議・シンポジウムの順番で開催された。会議では事例紹介が4つ行われ4人の講演が行われた。印象に残ったのは鳥取大学・水田様の紹介で複数機関の技術職員(岩手大学・分子研)が開発した汎用警報システムをさらに進化させて分析装置のエラーの通報装置として活用している例が紹介された。また新潟大学・五十嵐様より学内外向けの人材育成の紹介があり履修証明プログラムをうまく活用されている様子であった。その後シンポジウムでは文部科学省研究振興局大学研究基盤整備課 課長補佐・熊谷氏・同省科学技術・学術政策局 研究環境課・田邊氏から令和7年度概算要求の施策説明を受けた。

## 5. まとめと感想

技術職員会議では4名の方よりセンター内で取り組みの報告があった。鳥取大学・水田様の取り組みは人員不足の中大変有効に設備の運用が行える取り組みであるとかんじた。シンポジウムでは文部科学省の熊谷氏・田邊氏の講演で今後の学術行政の動向を考察する上で大変参考になった。引き続き同協議会に参加し業務に役立てていきたいと思う。